御参列を得ました事は、誠に嬉しく存じ感銘いたして居ります。

Sponsor Clubの会長及び各位、富田特別代表、伊部Past Governcr、渡辺分区代表の御親切な御努力に対し、厚く感謝の意を表します。

誕生の北R．C．のMember が友愛精神を遺憾なく発揮して、善い友の輪を造り、更にこれを広げて行き度いと念願し嘱望するものであります。

有難う御座いました。

❋ 函館北ロータリークラブ発会式

(1) 日　時　昭和３９年６月１６日（火曜日）　午后４時３０分開会

(2) 会　場　明治生命館（鶴岡町６）

(3) 発会式次第

1. 君が代斉唱〝奉仕の理想斉唱〟
2. 特別代表経過報告　（富田恭代表）
3. キーメン代表歓迎の挨拶（新善次代表）
4. 祝　辞

パスト　ガバナー　　伊部政治郎殿

函館東ロータリークラブ会長（スポンサークラブ）　近江政太郎殿

函館ロータリークラブ会長　　川守田完三殿

(4) 創立総会次第

議　長（特別代表　富田恭代表）

議　事　1. 理事選出

2. 理事会

3. 函館北仮ロータリークラブ会長挨拶

4. 定款及び細則審議決定

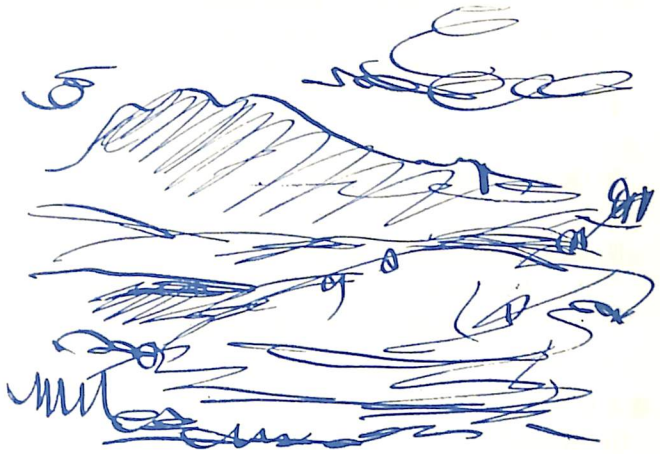
(5) 懇　親　会

1. 祝　乾　杯
2. 万　才　三　唱

(6) 解　散　（手に手つないで合唱）　午後６時４５分閉会

終了後東クラブ役員と北クラブ転出の役員の間に事務引継ぎが行われた。

The Weekly Rport of Hakodate-Horth R.C.



1964 — 6 — 24

函館北ロータリークラブ

第２回例会

例会場　明治生命館
例会日　毎週水曜日
12.30～13.30

◆斉　　唱　〝我等の生業〟

◆ビジター　阿部恵三男君（森R.C.）　村上栄一君（森R.C.）
藤岡秀彦君他６名（函館R.C.）　近江政太郎君他５名（函館東R.C.）

◆会長挨拶

① 第２回の例会でありますが、不手際にて少々おくれたことをお詫びします。

② 成るべくチャーターが終るまで、スポンサークラブである函館東、又は函館クラブにビジターとして出席下さる様に。

◆幹事報告

前の例会終了後残つていただいて、委員会の構成をしましたので報告します。

（敬称略　◎印 委員長　○印 副委員長）

Ⅰ　クラブ奉仕委員会　◎ 遠藤　尚義

1）出席委員会　◎ 鈴木　一郎　○ 大和　調二

2）親睦委員会　◎ 木屋　守迪　○ 斉藤　誠　森　正
奥村　順司　野村　宜市　成沢善次郎

3）雑誌委員会　◎ 門田　豊　青柳　喜一　西村　秀則

4）会員選考委員会　◎ 塚田　次郎　奥村　順司

5）プログラム委員会　◎ 西村　秀則

6）広報委員会　◎ 西村　秀則

7) クラブ会報委員会 ◎ 水上美喜雄 ○ 青柳 喜一 神原 金一
成田 勇司

8) 職業分類委員会 ◎ 山内 一雄 森 正 立花栄太郎

9) ロータリー情報委員会 ◎ 横山桂太郎 杉本 隆治 成沢善次郎

Ⅱ 社会奉仕委員会 ◎ 北村 実雄 立花栄太郎 杉本 隆治
大和 調二 飯田 貢一 鈴木 一郎

Ⅲ 職業奉仕委員会 ◎ 飯田 神生 野村 宜市 斉藤 誠
山内 一雄

Ⅳ 国際奉仕委員会 ◎ 深瀬鴻一郎 門田 豊 塚田 次郎

一人で二役或は三役やつていただいている場合があります。おやりになる仕事はクラブ細則に載つておりますが、他のクラブにメーキャップしていただくと仕事がより良くわかります。

◆スピーチ

① 新潟地震に学ぶもの 北クラブ会員 西村 秀則君

地震発生当時、マイクロの故障、停電等困難な状況下にありながら実況放送をした新潟N.H.K.のお話をします。

当日は午後1時頃地震があり、これはラジオ、テレビですぐ流れましたが、驚いたことにあの困難な状況にもかかわらず、N.H.K.テレビに新潟の石油タンクが燃えている絵が入つて来ました。私は職業柄、どうしてこの絵が流れて来たか疑問に思つてみていました。或は何時か別の時に撮つておいたのを流したのではないかと思いましたが、続いて地割れの様子や、鉄道線路の曲つた様子なども写し出されて来て、実況だと知つて驚きました。後で新潟N.H.K.に聞いてみました。

御承知の様にあのすぐ前に新潟で国体がありました。その時にN.H.K.ではオリンピック中継班が出動しました。幸い電源車と中継車がまだ新潟に残つていました新潟N.H.K.は地下発電も駄目になつて、放送不能に陥つていましたが、そのことを思いつきました。かけつけてみると無瑕でそこにありました。

そこで新潟N.H.K.の全員が直ちに電源、技術、プロデューサー、デイレクター等のスタッフになり、中継車の一台は屋上にあげ、一台は外に運び出しました。

マイクロがとまつているので、そのまゝでは絵になりませんが、国体で活躍した無線で新潟から金沢まで流し、そこから絵になつて全国に流れたわけです。

普通スタジオでは、電波が出るのに2時間位かゝる筈なのですが、この様にスムースに出来たことは、国体の経験が非常に貴重であつたからで、又このことは、全国民に安心感を与えるのに大きな力となりました。

尚この放送で感じたことは、普通斯様な事故があると、必ず多数の問合わせが来るわけで、今回はN.H.K.ニュースで情報をみて下さいと答えたわけですが、ここで民間放送が何故やれなかつたか、と言うことを考えなければならないのであります。今後斯様な場合、N.H.K.と民放とが協力して、速報と言うことと、同時性について、大いに努力しなければならぬと感じました。

② 新潟の石油タンクの火災について 北クラブ会長 新 善次君

新潟地震について、昭和9年函館が大火に見舞われた経験を思い出します。

通信も駄目になり、ラジオが大いに役立ちました。今やラジオ、テレビは我々の生活に貴重であることをしみじみ感ずると同時に、この職業によつて社会に奉仕することも亦貴いことであります。

今回の新潟地震ではタンクの火災だけで、民家の大火災がおきなかつたのは不幸中の幸でありました。石油タンクが燃えると実は手の施し様がありません。

従来石油タンクはボーリングをやつてみて、簡単に据附けておりました。

避電針は用いません。（タンク全体が避電針の役をするからかどうか判然としませんが）さて、油類の取扱いについて、火災の要素として三つあります。

即ち燃焼ガスと熱と空気（酸素）です。原油や重油は全部燃焼ガスと言つてもよろしい。これに熱と空気が加わると簡単に燃えます。

消す方法ですが、サウジアラビアとクウエートの間の油田の火災で実験したことがあります。アメリカから専門の消防士をよんで消しました。

これはフォーマイトと言うそうですが、要するに火の上に泡をかぶせて遮断するわけです。この原理から色々と消火法が工夫されているのではないかと思われます。

然し、石油タンクの火災は誠に手におえないものです。

今後続々と石油コンビナートが出来ると思われます。地下のガソリンタンクが火事になつたこともあります。

消防法でも取扱等に色々と規制がありますが、これを機に、今後種々のむつかしい制約が加えられるのではないかと思います。

尚、新潟の義援金については次回にお願いしたいと考えております。

◆出席報告

会員数 30名 出席 27名 他クラブ出席 なし
出席率 90%

次回例会日 7月8日